

医学部

放射線技術科学プログラム ■実践・応用能力を持つ診療放射線技師育成

取得できる学位 ★学士（保健学）

■ プログラムの概要

本プログラムは、科学の進歩を背景に高度化かつ専門化する放射線技術領域の教育プログラムである。また、国家資格を有する医療職「診療放射線技師」の養成プログラムでもあり、診療放射線技師として必要なX線や放射性同位元素、磁気共鳴現象、超音波を用いた撮影・撮像、放射線治療および放射線管理に関する知識・技能を修得することができる。本プログラムは、以下の特徴を有する。

- 1) 自然系共通専門基礎科目の重点的履修、幅広い保健学専門基礎科目の科目編成により、基礎知識と基礎能力を身に付けることができる。
- 2) 隣接する医歯学総合病院や地域基幹病院と連携した臨地実習プログラムにより、実践力を養うことができる。
- 3) 卒業研究においては、専門領域をより深く学び、物事を探求する能力および態度を身に付けることができる。

■ 人材育成目標

放射線に関わる科学・技術および保健医療の基礎知識、医療技術の進歩に対応できる応用力や臨床での実践力を身に付け、医療分野で指導的役割を果たすことのできる人材の育成をめざしている。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 人体の構造と機能及び疾病に関する系統立てた知識と理解。
- b) 生命科学・保健・医療に関する幅広い基礎知識と理解。
- c) 医療に応用される理工学及び情報科学の基礎知識と理解。
- d) 放射線の物理的性質と放射線計測に関する基礎知識と理解。
- e) 放射線生物学および放射化学に関する基礎知識と理解。
- f) 放射線の取扱いおよび管理に関する基礎知識と理解。
- g) 装置・機器の構造・動作原理に関する基礎知識と理解。
- h) 医用画像に関する画像工学・情報工学の基礎知識と理解。
- i) 画像診断に用いられる検査法の基礎知識と理解。
- j) 画像診断に必要な解剖・病態に関する基礎知識と理解。
- k) 核医学検査に関する基礎知識と理解。
- l) 放射線治療に関する基礎知識と理解。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 理工学及び情報科学を医療に応用することができる能力。
- b) 放射線計測を実践できる能力。
- c) 放射線生物学及び放射化学を医療に応用することができる能力。
- d) 放射線の取扱い及び管理を実践できる能力。
- e) 装置・機器の保守管理を実践できる能力。

- f) 画像工学・情報工学を医用画像の解析・評価・処理に活用できる能力。
- g) 画像診断に用いる検査法を実践的に活用できる能力。
- h) 画像診断に必要な解剖・病態に関する知識を実践的に活用できる能力。
- i) 核医学検査に必要な知識・技術を実践的に活用できる能力。
- j) 放射線治療に必要な知識・技術を実践的に活用できる能力。

| 3 | 汎用的能力

- a) 論理的思考能力
- b) 情報収集能力
- c) 情報分析能力
- d) 文章表現能力
- e) プレゼンテーション能力
- f) コミュニケーション能力
- g) 問題解決能力

| 4 | 態度・姿勢

- a) 常に新しい知識や技術を学び探究し続ける態度・姿勢。
- b) 責任感をもって医療を実践する態度・姿勢。
- c) 医療の向上のための実践への情熱。
- d) 医学・医療技術の進歩に寄与することへの情熱。
- e) 対象者の権利を理解し、尊重する態度・姿勢。

■ ■ プログラムの履修要件

- ・放射線技術科学や健康の保持増進に関心があり、協調性豊かな人
- ・人々の生活と社会に深い関心を持ち、人間愛に満ちた人
- ・生涯にわたって学習し、成長していきたいという意欲のある人
- ・医療、特に放射線技術に関する科学的知識と技術の習得に熱意を示す人
- ・高校で履修しておくことが望ましい理科学科目：物理基礎・物理
- ・高校で履修しておくことが望ましい数学科目：数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ、数学A・数学B・数学活用

■ ■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

幅広い教養を持ち、かつ専門的知識と技術の確かな実践・応用能力を身に付けた診療放射線技師を養成するために本カリキュラムは立案されている。

教養科目では、興味や関心に合わせて幅広く自然科学系科目や人文・社会科学系科目を履修できるなか、自然系共通専門基礎科目6単位を必修としている。

専門科目では、指定規則に定められた教育内容を基本として、学生が入学直後から意欲的に学べるよう1年次からスタートさせ、学年が進行するにつれて専門科目への割合が増えていく、いわゆる「くさび型」カリキュラムとしている。保健学科の共通科目（専門基礎科目）では、専攻の異なる者が意見交換しながら、保健・医療の幅広い知識を身に付けられるよう1年次から3年次まで配置している。4年次には、医歯学総合病院の他、市内の複数の基幹病院と連携した臨地実習を行い、また、放射線専攻内の各分野の教員に配属され、卒業研究を行う中で、実践力と応用力を身に付ける専門教育プログラムとなっている。